



鳥取市のSDGsの推進について

- (1) SDGsとは
- (2) 鳥取市のSDGsの推進について
- (3) 今後のSDGsの普及啓発について

企画推進部

(1) SDGsとは

持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goals）とは、2015年9月の国連サミットで加盟国の全会一致で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された、**2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標**です。17のゴール・169のターゲットから構成され、**地球上の「誰一人取り残さない（leave no one behind）」**ことを誓っています。（外務省HPより）



(2) 鳥取市のSDGsの推進について

▼第11次鳥取市総合計画との関連

第11次鳥取市総合計画・
第2期創生総合戦略
(いずれもR3.4.1施行)

各施策とSDGsを
紐づけ

各施策を推進することで
SDGsの推進に寄与

第11次鳥取市総合計画の基本構想に掲げるめざす将来像「いつまでも暮らしたい、誰もが暮らしたくなる、自信と誇り・夢と希望に満ちた鳥取市」と、SDGsの理念「『誰一人取り残さない』持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現」は同じ方向性である。

第11次鳥取市総合計画より、各施策とSDGsの17のゴール及び169のターゲットとの関連を明らかにしており、全ての施策との紐づけは完了している。

総合計画を推進することがSDGsの達成に寄与する
という前提で各施策を実施していく。

(3) 今後のSDGsの普及啓発について

職員への意識啓発

- ▶ グループウェアを利用したアンケート調査（認知度のチェック）
- ▶ グループウェアへの表示
- ▶ 職員研修会
- ▶ 各部署で行う会議資料など発出する文書に関連するゴールのロゴを表示する

市民の方への情報発信

- ▶ 庁内掲示及びパネル展など
- ▶ 市報での特集（直近では8月号）各部署の特集記事に関連するゴールのロゴを表示など
- ▶ 鳥取市SDGs宣言

他団体との連携

- ▶ とっとりSDGs自治体ネットワーク（事務局は鳥取県）での他自治体との情報共有
- ▶ 鳥取環境大学との連携による事業（職員への研修など今後協議）



「SDGs未来都市」の実践について

経済観光部

「SDGs未来都市」に選定されました

5月21日、内閣府より「令和3年度SDGs未来都市・自治体SDGsモデル事業」の選定について発表があり、鳥取市の提案が「SDGs未来都市」として選定されました。

▼SDGs（持続可能な開発目標）とは

国連サミットで採択された、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指すための国際社会共通の目標です。

▼「SDGs未来都市」とは

SDGsの推進に向け、内閣総理大臣を本部長とする「SDGs推進本部」において、自治体によるSDGsの達成に向けた取組みを推進するため、平成30年度に創設されました。

SDGsの理念に沿った基本的・総合的取組を推進しようとする都市・地域の中から、特に、経済、社会、環境の三側面における新しい価値創出を通して持続可能な開発を実現するポテンシャルが高い都市・地域を選定されるもので、本年度は、本市を含む31の都市が選定されました。



鳥取市SDGs未来都市の概要①

全体タイトル『サステナビリティ×イノベーションで「農村から真の持続可能なまち」を実現する』

▶ 2030年のあるべき姿

産学官が十分に連携し、「食」と「エネルギー」の自給自足が達成できる地方都市モデルを構築し、持続可能な新たな農村モデルとして、国内のみならず世界へ本モデルを普及させていくため、「次世代の農業生産が進む都市」「持続可能な再生可能エネルギーの地産地消が進む都市」「人と人が繋がる交流・学習都市」の3点を設定します。

▶ 自治体SDGsの推進に資する取組

あるべき姿の実現に向けた、今後3年間の取組として「次世代農林水産業の具現化」「地域資源を活かした脱炭素社会、鳥取市版『地域循環共生圏』の具現化」「都市部との繋がりを築ける活力あるまちづくりの具現化」を設定します。

	経済面	環境面	社会面
実現に向けた優先的な ゴール・ターゲット	環境に優しく生産性の高い農業を進め、 地域に新たな付加価値を創造する都市	地域性を活かした自然エネルギー導入を 進め、エネルギー地産地消が進む都市	地域内外の多様な人々と交流し、学びあ うことで発展を続ける交流・学習都市
自治体SDGsの推進に資 する取組	次世代型農林水産業の具現化	地域資源を活かした脱炭素社会、鳥取市 版「地域循環共生圏」の具現化	都市部等との繋がりを築ける活力あるま ちづくりの具現化
2030年のあるべき姿	様々な人が繋がり、「食」と「エネルギー」の自給自足が達成できる地方都市の実現		

鳥取市SDGs未来都市の概要②

特に注力する先導的取組

『再生可能エネルギーの創出と活用による農村イノベーション』～知と地で創るイノベーション・ビレッジ～

地域の産学官が連携し、再生可能エネルギーの自給と新たなエネルギー技術の実用化に向けた取組を核として、そのエネルギーを有効活用したスマート農業のモデルを構築し、持続可能な未来の農村及び地方都市の姿を実証します。また、本取組を多くの人・企業との交流に繋げ、新たな共創や関係人口の拡大を図ります。

経済 農業イノベーション

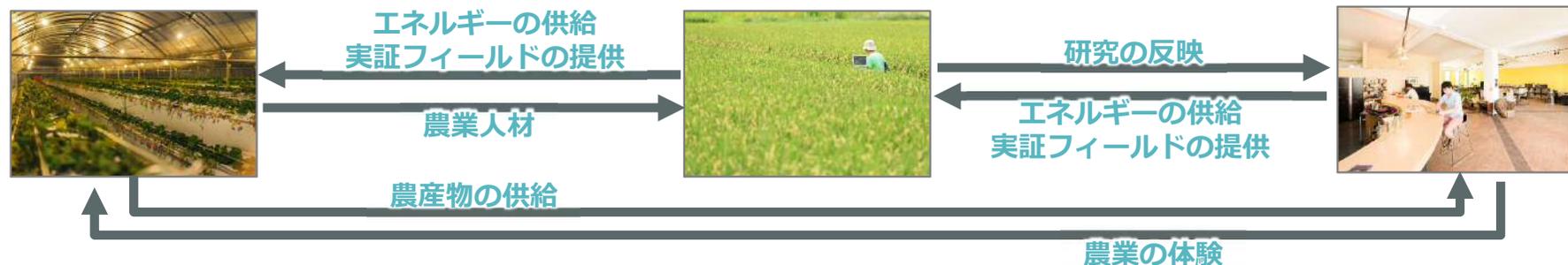
- 再生可能エネルギーの活用
- 新たな農業経営モデル
- 再エネ農産物の全国流通

環境 環境イノベーション

- エネルギー地産地消の推進
- 太陽光発電パネルリサイクル
- 微生物発電の実用化事業

社会 交流イノベーション

- 交流・研究拠点整備
- ラーニングワーケーション実施
- まちづくり人材の育成



実践に向けた連絡協議会の立ち上げ（庁外）

※SDGsの理念に沿った取組を推進する都市の中でも、特に、経済・社会・環境の三側面において持続可能な開発を実現するポテンシャルの高い都市が未来都市として選定。この連絡協議会は、未来都市実践のため、三側面をつなぐ役割として発足させる。

団体・組織名等	未来都市実践における位置付け・役割
(株)鳥取再資源化研究所	廃ガラスのリサイクルによって生み出される、多孔質ガラス発泡材「ポーラスα」を製造する。鹿野地域を舞台に微生物発電の実証を手掛ける。
鳥取大学	ポーラスαが生み出す様々な特殊効果（農作物への影響や微生物発電の実証など）の調査・研究を行う。
公立鳥取環境大学	大学におけるフィールドワークやシンポジウム開催などの活動を通じて、地域とのSDGsをテーマにした取組の展開を図る。
丸紅グループ	(株)鳥取再資源化研究所と連携し、太陽光パネルリサイクルを通じた環境循環型ビジネス、及びポーラスαを活用し微生物発電によるクリーンエネルギーの供給や水質・土壌改良等の環境改善の取組を国内外で推進する。
(株)メイワファームHYBRID	再生可能エネルギーを活用した農業生産を実施する。同社は令和2年度に鳥取市内で新たに法人を立ち上げた農業法人で、温泉熱を活用したイチゴ栽培を行っている。
リバードコーポレーション(株)	再生可能エネルギーを活用した農業生産を実施する。同社は令和元年度よりグループ内に農業法人を設立して、イチゴ栽培やサツマイモ栽培を行っている。
(株)地域商社とっとり	微生物発電によりできあがった農産物や成果物について、自社ネットワークを活用した商品展開を行う。
(株)とっとり市民電力	再生可能エネルギーの地産地消を推進する（エネルギーの地産地消100%を目指し、再生可能エネルギーの供給や販売を行っている）。地域での新エネルギーを活用した電力供給システムの検討。
一般社団法人麒麟のまち観光局	鳥取県東部及び兵庫県北部の市町で構成される「麒麟のまち圏域」での観光事業を創出するDMO。とっとりモデルでのラーニングワーケーションを企画・販売する。
(株)山陰合同銀行、(株)鳥取銀行	地元金融機関として、本事業を手掛けるために必要となる資金面を支援する。その他、農産物の販路支援や、投資資金の調達支援等を行う。
地元NPO法人	ラーニングワーケーションを実施するにあたり、必要となる地元との日程調整等のコーディネートを行う。

SDGs未来都市実践PTの設置（庁内）

SDGs未来都市選定後の3年間の取組みを進めていく上で、庁内関係部署の連携を図るため、SDGs未来都市実践PTを設置します。

